

厚田学園開校準備委員会 第10回会議【質疑要旨】

- ・日時 平成30年10月29日(月) 18:30～19:15
- ・会場 厚田保健センター 1階多目的ホール
- ・出席者 委員12名
 - ・保護者： 小笠原英史(厚田小PTA会長)、角田由希(望来小PTA会長)、阿部 保(聚富小中PTA会長)、
 - ・学校関係者： 石橋浩明(厚田小校長)、伊東優子(望来小校長) 三浦崇史(厚田中校長)、青山 司(聚富小中校長)
 - ・学校支援推進員： 渡部賢二(望来小)、小林晴美(厚田中)
 - ・厚田区地域協議会： 築田敏彦(厚田区地域協議会会長)
 - ・学識経験者： 佐藤勝彦(委員長：札幌大学名誉教授)〔委員長〕 前田賢次(北海道教育大学札幌校准教授・教育方法学)〔副委員長〕

教育課程部会 鬼塚建次(厚田小教頭)、徳田和之(聚富小教頭)、
(学校管理職) 野口俊之(厚田中教頭)、北村 剛(聚富中教頭)

事務局

〔市教委〕

佐々木生涯学習部長、佐藤教育指導担当次長、安崎総務企画課長、佐々木学校教育課長、照山指導担当参事、相原厚田生涯学習課長、清水市民図書館副館長、松永総務企画課主幹、古屋総務企画担当主査、加藤施設担当主査、西山厚田生涯学習課主査、石黒学校教育主事

※欠席2名

(早坂伊佐雄委員：厚田中PTA会長)

(渡邊教円委員：厚田小学校支援推進員)

※傍聴者1名

● 委員長あいさつ(佐藤委員長)

前回の会議では、校名(案)の協議を行い、準備委員会として「厚田学園」に決めることができました。今後は、本日の議題となっている校章のデザイン、そして校歌など、新しい学校のシンボルとなるものを決めていくこととなっている。厚田区の各学校は100年を越える歴史を持っているが、この2年間でそれぞれ閉校しながら新しい小中一貫校を創っていくということは、本当に大変な仕事だと思っている。例え、社会の流れとはいえども、この少子化にはなかなか歯止めがかからない状況でやむを得ないと思うが、これまでの歴史、伝統を守りながら、私達は将来につなぐ新しい学校を創るという機会に恵まれた者として、引き続きしっかり議論をして後世に残せる学校のシンボルを決めていきたいと思っているので、どうか宜しくお願いしたい。

- 事務局より報告、説明等（松永総務企画課主幹）
 - ・ 9月の定例市議会において、校名を「石狩市立厚田学園」とすることについて承認、決定された。また、これを受けて、この会議の名称を「開校準備委員会」とすることとした。
 - ・ 前回の会議録（質疑要旨）について、訂正箇所等が無い旨、各委員からの了承を確認した。

- 校章の決定方法の協議
 - ・ 別紙1の事務局案「公募によりデザインを募集（H30.11月～）」について、事務局（松永総務企画課主幹）より提案説明した。
 - ・ 平成22年に開校した双葉小の校章を決定した時の選考方法、経過等について紹介した。
 - ・ 平成21年1月に募集、全国から14人・37作品の応募があった。同年2月の統合準備委員会において、委員による3回の投票を経て決定した。
 - ・ 投票1回目は委員一人5票で、上位8作品を選考 ⇒ 投票2回目は委員一人1票で、上位3作品を選考 ⇒ 投票3回目で委員一人1票として、最上位1作品を選考した。
 - ・ 採用者への褒賞は無し。

【質疑応答】

（佐藤委員長）

著作権に関して、応募作品に不正があるかどうかを調査する準備はしているか。

（事務局：松永総務企画課主幹）

商標登録や意匠登録等の事務を管轄している特許庁への照会や、インターネットで独立行政法人が開設している商標検索の支援ツールを活用するなどして調査したいと考えているが、現段階で100%クリアできる確約はできないので、採用決定後であっても採用を取り消す場合がある旨を記載することについてご了承をいただきたい。（⇒ 佐藤委員長、各委員了承）

（佐藤委員長）

選考方法を明記するにあたって、準備委員会で決定するのか、関係校の子ども達による投票を行う場合があることも加えるのか、その判断について協議したいと思うがいかがか。

（A委員）

校名と同様、校章のデザインについても、この開校準備委員会の中で決めた方がいいと思う。

（佐藤委員長）

その他のご意見はいかがか。

（意見なし）

(佐藤委員長)

それでは、この準備委員会で決定するという事とする。

(全委員、了承)

● 教育課程部会（分科会）からの報告

(厚田中・野口教頭「移転・受け入れ分科会」)

8月上旬に厚田中の機能を厚田小へ無事移転することができた。子ども達の教育環境に不利益が生じないように、これまで生活してきた中で見えてきたことについては随時、市教委などの関係機関と連携、相談させていただいた中で対応していきたい。今後、特別教室や体育館の使い方等について、厚田小と摺り合わせをさせていただきながら細部の調整を行うこととしている。また、厚田学園の開校前に再度移転を行うための準備や、厚田小と厚田中のPTA組織についても、一年前倒しをして平成31年4月から合同の組織体制としていくこととしており、11/8に臨時の小中合同のPTA総会を開催し、規約等を整理して来春からスタートできるような準備を進めている。

(聚富中・北村教頭「9年間を見通した教育課程分科会」)

児童生徒の9年間を見通した教育課程として、どのような方法で児童生徒を育てていくか、どの時期に何を学習するか等について検討している。具体的には、各学年の教育内容や児童・生徒会活動、委員会・たて割り活動のほか、小学校と中学校の旅行的行事に関わることについても、今後詰めていくこととしている。

(聚富小・徳田教頭「新しい学校の特色づくり分科会」「新学習指導要領への対応分科会」)

新しい学校の特色づくりについて、厚田ならではの教育活動として継承するもの等について吟味、検討し、具体的な計画の策定作業をしているほか、新学習指導要領への対応として、特に外国語活動の教育課程を作っているところである。

(厚田中・野口教頭「少年団・部活動分科会」)

児童生徒数が減少していくことが見込まれる中で、現在、厚田中の部活動の団体種目である野球部とバレー部は、今後の長いスパンで考えたときに存続が大変厳しくなることが予測されることから、これまで4～5回にわたって保護者や地域の方々と会議や説明会の機会を設けてきた。8/29に今後の部活動の方向性に係るロードマップの原案を保護者へ説明し、基本的な考え方として運動部については個人種目の部活動へ移行していくことを示した中で、望来小と厚田小、厚田中の保護者へアンケートを実施した。約9割の方から賛成、同意をいただいたが、一部の方からいただいた意見を踏まえて、10月にロードマップの修正案を作成した。次回、11/1に小学5年生から中学2年生の保護者を対象にした説明会を開催することとしている。なお、新設種目等については、子ども達の意向、意見

を聞いてほしいという要望があったことを受け、アンケートを実施し参考にしながら新種目へ移行していきたいと考えている。現段階では、現在の野球部とバレー部については、厚田学園の開校と併せて、順次閉鎖していくという基本的な考え方として進めていきたいと考えている。

(厚田小・鬼塚教頭「閉校開校準備分科会」)

これまで2回の会議を開催した。先日10/18の小中合同のPTA役員会では、閉校準備を進めるにあたっての組織体制や閉校事業準備委員会を立ち上げるることについて確認し、来年4月からは閉校事業実行委員会に名称を変えて、閉校に向けた取組活動を行っていくこととしている。また、厚田学園の開校準備についても、閉校事業実行委員会の活動が始まり次第、同時並行で進めていきたいと考えている。

● 聚富小中学校の児童生徒の通学先意向調査について（事務局：松永総務企画課主幹）

- ・2020年4月に石狩八幡小学校と厚田学園が開校するにあたり、教育委員会では、開校時における両校の児童生徒数や学級数、教職員数の見込みを把握するとともに、スクールバスの運行経路を定めるために、来月（11月）に、現在の聚富小学校の1年生から聚富中学校の1年生までを対象に、現時点での通学先の意向調査を行う。後日、調査票を配付し、11月末までに提出していただく予定であることを報告する。

(全委員、了承)

● その他

(委員、事務局より案件無し)

● 次回会議について

(佐藤委員長)

次回の会議については、校章のデザインの募集が終了した後、来年2月の開催を予定している。日時が決まり次第、各委員へご連絡する。

閉 会

会議録署名

上記会議の経過を記録し、その相違ないことを証するため、ここに署名します。

平成31年2月21日

厚田学園開校準備委員会

委員長 佐藤勝彦